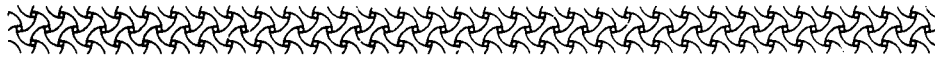


学内広報



2002. 5. 22
東京大学広報委員会

春の紫綬褒章受章、記者会見行われる



(3 ページに関連記事)

目次

一般ニュース	2	「初心者水泳講習会の開催」、「江戸期の俳書展」のお知らせ、東大情報理工・マイクロソフト 共催シンポジウム、駒場リサーチキャンパス一般公開、東京大学浅野地区工学部武田先端知ビル地点から検出した方形周溝墓一般公開のお知らせ	
総長の海外出張、評議会（5月14日（火））承認事項、名誉教授の称号授与		淡青評論「想像力が足りないぞ」	8
特別記事	3		
春の紫綬褒章受章、記者会見行われる			
掲示板	5		

≡ 一般ニュース ≡

総長の海外出張

平成14年5月18日(土)～5月22日(水)

南京大学百周年記念式典出席等のため、中華人民共和国(南京等)へ

評議会(5月14日(火))承認事項

東京大学組換えDNA実験実施規則の一部改正

この規則は、「組換えDNA実験指針」(昭和54年8月内閣総理大臣決定(平成13年1月から文部科学大臣決定))及び「大学等における組換えDNA実験指針」(平成3年1月文部科学省告示第4号)によって運用されてきたところであるが、その後の組換えDNA研究に係る知見の集積を基に、平成14年1月上記指針が統一され、「組換えDNA実験指針」(平成14年1月文部科学省告示第5号)が示されたことに伴い所要の改正が行われた。

附 則

この規則は、平成14年5月14日から施行し、改正後の東京大学組換えDNA実験実施規則の規定は、平成14年3月1日から適用する。

東京大学医学部附属病院規則の一部改正

平成14年度から中央診療施設として新たに感染制御部が設置されたこと、また、保健婦助産婦看護婦法(昭和23年法律第203号)の一部改正により、「看護婦」等の資格の名称が「看護師」等に改められたことに伴い所要の改正が行われた。

附 則

この規則は、平成14年5月14日から施行し、改正後の東京大学医学部附属病院規則の規定は、平成14年4月1日から適用する。

大学間学術交流協定

- ・東京大学とリンシェーピング大学(スウェーデン)との間における学術交流に関する大学間協定の締結
- ・東京大学とピサ高等師範学校(イタリア)の間における学術交流に関する大学間協定の締結

名誉教授の称号授与

5月14日(火)に開かれた評議会にて、東京大学名誉教授称号授与規則により、次の元教授23人に名誉教授の称号を授与することになった。

部局	氏 名	担 当 講 座 等
大・医	金 澤 一 郎	臨床神経精神医学講座
大・医	高 橋 泰 子	看護学講座
大・医	荒 記 俊 一	社会予防医学講座
大・工	石 谷 久	資源エネルギーシステム講座
大・工	玉 井 信 行	社会基盤サイエンス講座
大・文	樺 山 紘 一	西洋史学講座
大・理	山 田 作 衛	高エネルギー物理研究部門
大・理	永 嶺 謙 忠	附属中間子科学研究センター
大・理	柴 田 徳 思	学際研究
大・農	瀬 尾 康 久	生物システム工学講座
大・農	平 井 篤 志	基礎生物学領域講座
大・養	福 永 哲 夫	運動適応科学講座
大・養	保 坂 一 夫	ヨーロッパ・ロシア地域文化講座
大・養	國 重 純 二	北米・中南米地域文化講座
大・養	川 口 昭 彦	生命機能論講座
大・育	近 藤 邦 夫	学校教育開発学コース
大・薬	長 尾 拓	医療薬学講座
地震	井 田 喜 明	附属火山噴火予知研究推進センター
地震	吉 井 敏 尅	附属地震予知研究推進センター
東洋	後 藤 明	西アジア研究部門
史料	菅 原 昭 英	古文書・古記録部
物性	寺 倉 清 之	理論部門
産学	輕 部 征 夫	生物工学分野

≡ 特別記事 ≡

春の紫綬褒章受章、記者会見行われる

佐藤勝彦、御子柴克彦両教授、及び木谷収名誉教授の紫綬褒章受章の記者会見が、4月26日に行われた。

佐藤勝彦教授が紫綬褒章を受章

本学理学部長・大学院理学系研究科長である佐藤勝彦物理学教室教授が紫綬褒章を受章されました。

佐藤教授は、1975年、重力収縮直後の超新星の中心部で高エネルギーニュートリノが10秒間程度閉じ込められた状態になることを理論的に示し、重い星の進化の最終段階である超新星爆発の物理機構解明の端緒を切り開きました。実際、この「ニュートリノ閉じ込め」が確かに起っていることが、その12年後、本学の神岡実験グループによる超新星1987Aからのニュートリノ検出によって実証されました。また、最新の素粒子物理理論を宇宙現象に応用する方法論を積極的に提案し、「素粒子論的宇宙物理学」と呼ばれている分野を開拓しました。

とりわけ、1980年に誕生直後の宇宙にはその大きさが時間の指数関数で急速に膨張時期が存在することを、米国のグース氏（現在MIT教授）と独立に指摘しました。さらに、今では「インフレーション」と呼ばれて広く知られているこの理論に基づいて、宇宙の多重発生、バリオン数の起源、宇宙の密度、ゆらぎの起源、に関する数多くの画期的なアイデアを提唱しました。インフレーション理論の予言は、2001年に発表されたマイクロ波背景放射の高角度分解能気球実験により観測的にも確認されており、素粒子論的宇宙論モデル構築における最も基本的なパラダイムとして完全に定着しています。このように、佐藤教授の先駆的かつ独創的な研究の数々は、その後の宇宙物理学の発展において極めて重要な影響を与えたものとして、国内外で高い評価を受けています。

（大学院理学系研究科 須藤靖）



佐藤勝彦教授

御子柴克彦教授が紫綬褒章を受章

医科学研究所の御子柴克彦教授が本年度の紫綬褒章を受章されました。

御子柴教授は発生と分化の過程に異常を示すマウスの突然変異体（ミュータント）と正常動物を分子生物学的に比較解析する手法を導入することによって、複雑な構造と機能を有する脳神経系の発生・分化の問題を次々と明らかにし、今日の分子神経科学の発展に大きな貢献を果たしてきました。小脳のプルキンエ細胞という神経細胞に豊富に局在するタンパク質（P400）がイノシトール三リン酸（IP3）受容体であることの発見に始まる一連の研究成果により、細胞内のCa²⁺波やCa²⁺振動を起こす小胞体のCa²⁺チャンネルとして、IP3受容体が初期発生のみならず、脳の発生・分化や高次機能に必須な役割をしているなど多くの新しい概念を確立しました。さらに神経の誘導・分化に関わる機能分子や神経細胞の脳内位置を決定する分子を次々と発見し、分子構築と形態形成の対応づけを行いました。これらの研究は従来のコンセプトを変え、脳の発生・分化の理解、脳機能障害発現のメカニズムの解明に大きく貢献してきました。

（医科学研究所 井上貴文）



御子柴克彦教授

木谷収名誉教授が紫綬褒章を受章

本学農学生命科学研究科名誉教授、現日本大学教授の木谷収先生が平成14年度春の紫綬褒章を受章された。

木谷先生は、農業機械学分野において、研究・教育に努められ、日本および世界の農業機械化の発展に貢献された。また、農業におけるエネルギー・資源問題の研究において先駆的役割を果たすとともに、社会への啓蒙と施策に力を尽くされた。このたびの受章は、これらのご功績に対して授与されたものである。

耕耘機械と土壌動力学の研究では、耕地のような膨軟な土壌の力学の基礎になる、新しい構成方程式を導き、さらに、塑弾性有限要素法を用いて耕うん土壌の応力解析を行ったニューマティック耕うんに関する基礎研究では高い評価を受けた。この研究は、空気力で土壌を耕耘するための基礎研究で、果樹の根を傷めないで、果樹園を中耕する機械等に应用されている。消費エネルギーの大きい耕耘機械のエネルギー低減や、石油燃料に替わる太陽エネルギー、バイオマスエネルギーの開発の研究では、消費エネルギーが少ない耕耘機械設計の鍵となる耕耘刃の形状や運動を明らかにし、省エネ耕耘機械開発に貢献した。代替エネルギーの研究では、太陽熱エネルギーで灌漑するシステムやバイオマスをエネルギー変換する装置の基礎研究で成果を挙げた。

(農学生命科学研究科 岡本嗣男)



木谷収名誉教授

≡ 掲示板 ≡

初心者水泳講習会の開催

初心者の方を対象に、今年度も下記のとおり水泳講習会を開催します。

1. 日時 : 6月18日(火)、20日(木)、21日(金)
25日(火)、27日(木)、28日(金)
計6日間
各日とも17時45分～19時15分(1時間30分)
2. 場所 : 御殿下記念館プール
3. 対象 : 本学学生・教職員(運動会員)
〔初心者(全く泳げない)、初級者(息継ぎができない)に限ります〕
4. 定員 : 30名(定員になり次第締め切ります)
5. 受講料 : 500円(6回分)
6. 受付 : 5月20日(月)9時30分～
御殿下記念館モール階 運動会受付
7. 説明会 : 6月14日(金)17時30分～18時00分
御殿下記念館第一研修室(記念館入口の右隣)
8. 講師 : 東京大学水泳同好会(日本水泳連盟公認指導員)
9. その他 : 問い合わせは、学生部学生課体育第一掛(内線:22509～22511)まで
(学生部)

「江戸期の俳書展」のお知らせ

6月7日(金)～6月26日(水)開催

附属図書館では、「江戸期の俳書展」と記念講演会を開催します。

今年は日本近世文学会五十周年にあたりますので、その記念行事に協賛して、展示の内容を江戸期文学に的を絞り、俳書の展示を行なうものです。

当館の数あるコレクションのうち、洒竹文庫・竹冷文庫・知十文庫は国内でも屈指の優れた内容のもので、当館でも貴重書扱いとしていますが、今回はこれらの中から、特に挿し絵や造本の美しいものを選定して展示する計画です。

A. 展示会「江戸期の俳書展」

- ◆期間:平成14年6月7日(金)～6月26日(水)
- ◆時間:9時～19時(最終日は16時まで)
- ◆会場:総合図書館 3階ロビー
- ◆主要展示品:「新百人一句」「古今俳諧師手鑑」
「夜桜」「その菊」「暗夜訓蒙図彙」

B. 記念講演会「俳書さまざま」

- ◆講演者:東京大学大学院人文社会系研究科・文学部
長島弘明教授
- ◆日時:平成14年6月17日(月)14時～15時30分
- ◆会場:総合図書館 3階大会議室

C. マルチメディア展示

各資料の展示個所を、附属図書館ホームページ上で電子展示する予定

URL <http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/koho/tenjikai/>

(附属図書館)

東大情報理工・マイクロソフト 共催シンポジウム

「Bridging People and Society—人と社会をつなぐ情報環境」

大学院情報理工学系研究科は、マイクロソフト(株)と共催で、近未来の情報技術と人々の生活、社会に関する表記シンポジウムを以下のように開催します。世界最大のコンピュータソフトウェア会社 マイクロソフトの最高経営責任者(CEO) スティーブ・バルマー氏には基調講演スピーカーとして、学生を含む広い人々を対象にビジョンとメッセージを語ってもらいます。奮ってご参加いただくようご案内いたします。

1. 日時:2002年6月24日(月)13:00～17:00
(受付開始 12:30)
 2. 会場:東京大学・安田講堂
 3. 共催:大学院情報理工学系研究科、
マイクロソフト(株)
 4. 参加:無料(ただし、以下Webより事前申し込みを要する)
<http://www.i.u-tokyo.ac.jp/news/news.htm>
 5. 内容
(司会) 辻井潤一(大学院情報理工学系研究科 教授)
 - 13:15 開会の辞
田中英彦(大学院情報理工学系研究科長)
 - 13:30 基調講演「The Vision of Future Environment」
スティーブ・バルマー(マイクロソフト
コーポレーション CEO(最高経営責任者))
 - 14:45 「自然言語対話による自動質問応答システム」
黒橋禎夫(大学院情報理工学系研究科 助教授)
 - 15:25 「空間共有コミュニケーションのためのマルチメディア処理」
相澤清晴(大学院新領域創成科学研究科 教授)
 - 16:05 「キャラクターエージェントによる新形態マルチ
モーダル・メディア」
石塚 満(大学院情報理工学系研究科 教授)
 - 16:45 閉会の辞
辻井潤一
- 使用言語:日本語/英語
問合せ先:大学院情報理工学系研究科・渉外委員会
石塚 満(大学院情報理工学系研究科 教授)
Tel. (03)5841-6347 Fax. (03)5841-8570
Email: ishizuka@miv.t.u-tokyo.ac.jp

駒場リサーチキャンパス一般公開

駒場リサーチキャンパスでは、下記のとおり7つの研究所・センターにおいて、2日間にわたり8の講演を含めた研究室の一般公開を行います。

皆様のご来場をお待ちしております。

日時

平成14年6月6日(木) 10:00~17:00

平成14年6月7日(金) 10:00~16:00

(両日とも終了時間の1時間前までにご来場ください。)

場所

東京都目黒区駒場4-6-1 東京大学駒場リサーチキャンパス

小田急線・東北沢駅から徒歩7分

小田急線・地下鉄千代田線・代々木上原駅から徒歩12分
京王井の頭線・駒場東大前駅から徒歩10分、池ノ上駅から徒歩10分

研究室公開

- ・生産技術研究所 [IIS]

URL <http://www.iis.u-tokyo.ac.jp/announce/>

TEL 03-5452-6008~9

- ・先端科学技術研究センター [RCAST]

URL <http://www.rcast.u-tokyo.ac.jp/index-j.html>

TEL 03-5452-5383~4

- ・人工物工学研究センター [RACE]

URL <http://www.race.u-tokyo.ac.jp/>

TEL 03-5453-5882

- ・国際産学共同研究センター [CCR]

URL <http://www.ccr.u-tokyo.ac.jp>

TEL 03-5452-6022

- ・空間情報科学研究センター [CSIS]

URL <http://www.csis.u-tokyo.ac.jp/>

TEL 03-5453-5690

- ・気候システム研究センター [CCSR]

URL <http://www.ccsr.u-tokyo.ac.jp/>

TEL 03-5453-3950

- ・先端経済工学研究センター [AEE]

URL <http://www.aee.u-tokyo.ac.jp/>

TEL 03-5452-5360

講演(申し込み不要、聴講は無料です。)

- ・生産技術研究所第1会議室 (Bw-701)

6月6日(木)

13:00~13:50 河田 研治 教授

「鏡面を創る新しい研磨技術—複合粒子研磨法—」

6月7日(金)

10:20~11:10 平本 俊郎 教授

「半導体デバイスはどこまで小さくなるか?」

11:20~12:10 香川 豊 教授

「産学共同で実用材料ができるまでの道のり:セラ

ミックス系複合材料の例を通して」

13:00~13:50 志村 努 助教授

「覆水を盆に返す:位相共役光の発生とその応用」

- ・先端科学技術研究センター4号館2階講堂

6月6日(木)

14:00~14:50 藤井 真理子 教授 (AEE)

「構造改革と金融工学の役割」

15:00~15:50 小口 高 助教授 (CSIS)

「地理情報システムを活用した自然環境解析—何が可能になったか—」

6月7日(金)

14:00~14:50 新井 民夫 教授 (RACE)

「サービス工学の提案—人工物工学の新しい方向—」

15:00~15:50 近藤 豊 教授 (RCAST)

「オゾン層の破壊と地球温暖化」

東京大学浅野地区工学部武田先端知ビル地点から検出した方形周溝墓一般公開のお知らせ

埋蔵文化財調査室では、生産技術研究所・先端科学技術研究センター他の主催で行われる、東京大学駒場Ⅱリサーチキャンパス オープンキャンパスで工学部武田先端知ビル地点で検出した弥生時代の方形周溝墓を出展することになりました。

東京大学浅野地区 工学部武田先端知ビル地点は、「弥生時代」「弥生式土器」の名称のきっかけとなった壺形土器が、明治17年に発見された「向ヶ丘弥生町」の一角に位置します。東京大学文学部他が浅野構内で調査を行った東京大学構内弥生二丁目遺跡は、現地保存され国の史跡に指定されています。弥生町遺跡は、「学史上の遺跡」として知られており東大構内に残る貴重な文化財です。昨年、浅野地区 工学部武田先端知ビル地点で発掘調査を行った結果、弥生時代の埋葬施設である方形周溝墓を検出し、弥生式土器・ガラスビーズ・管玉が出土しました（学内広報No.1231）。調査後、方形周溝墓のかたどりによる保存が決定し、現在、駒場Ⅱリサーチキャンパスで展示資料化作業を行っています。当日は、方形周溝墓・出土遺物の展示を予定しています。

日時：6月6日(木)・6月7日(金) 10:00～16:00

会場：東京大学駒場Ⅱリサーチキャンパス内

展示場所：東京大学埋蔵文化財調査室（旧39号館）

問い合わせ先：03-5454-8421

参加費無料、参加自由



浅野地区 工学部武田先端知ビル地点検出方形周溝墓
(埋蔵文化財調査室)

想像力が足りないぞ

どうも日本が構造的におかしい。政治のトップからシモジモの庶民まで、お粗末な出来事の連続である。何でこうなったか考えるに、いささか突飛だが、我々の想像力が貧困になってきたことが遠因の一つではなからうか。世の中が豊かで平和になり、日本全体がおそろしく均質化し、どの街を尋ねても同じチェーン店が軒を並べるようになると、みな自己中心のちっぽけな世界観に安住してしまい、その外には異なる文化、異なる発想、異なる体験が無尽蔵に広がっていることに、気づかなくなってしまう。感性の枯渇である。

私の専門とする物理の世界でも、同様であると思う。かつては特殊関数を計算したり微分方程式を解くため、巧妙な近似方法がさまざまに考案され、見えないものを何とかして見ようとする手練手管が深められた。実験装置にしても、絶妙なアイデアと職人芸に支えられた芸術品が数多く生み出された。実験装置ではないけれ



ど、たとえば初期のプラネタリウムでは、遊星歯車を巧妙に組み合わせて月や惑星の楕円軌道を再現したそうで、逆回しすると、数百年前の歴史的な日蝕や月蝕がみごと再現できる精度だったという。

ところが日々お世話になっている計算機の進歩のため、いとも簡単に高度な数値計算や大規模なシミュレーションや大量のデータ処理が実行できるようになり、プラネタリウムはすべてコンピュータ制御となった。研究の効率は桁違いに高まり、多くの不可能が可能になったわけが、それと引き換えに研究が業務の様相を帯びてきた。自戒の念を込めて言うなら、端末に向かっているだけで仕事をしたような錯覚に陥ってしまうのである。角度を少し変えて定説を見直すと、すばらしい展開が待っているのに、想像力が貧困なため、それに気づかずに終わってしまう。これではいけない。

計算機のすばらしい機能を自在に活かしつつ、それを越えた次元で想像力を磨き、豊かな洞察力を育てるような教育を行うことが、21世紀の大学に求められているのではなからうか。

(大学院理学系研究科 牧島一夫)

(淡青評論は、学内の職員の方々をお願いして、個人の立場で自由に意見を述べていただく欄です。)

この「学内広報」の記事を転載・引用する場合には、事前に広報委員会の了承を得、掲載した刊行物若干部を広報委員会までお送りください。なお、記事についての問い合わせ及び意見の申し入れは、総務課広報室を通じて行ってください。

No. 1240

2002年5月22日

東京大学広報委員会

〒113-8654 東京都文京区本郷7丁目3番1号

東京大学総務課広報室 ☎ (3811) 3393

e-mail kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

ホームページ <http://www.u-tokyo.ac.jp/index-j.html>